

美ら島

まるごと

ミュージアム



紅型 (びんがた)

第1回

わたし達が住む沖縄を、色で表すと？
 自然を感じる海や空の青もそうですが、
 歴史や文化を感じるのは、
 紅型で象徴的に使われる朱や黄ではないでしょうか。
 今回は、普段身につける機会もなかなかなく、
 知っているようで、あまりよく知らない紅型をご紹介します。

紅型の「紅」は「赤」ではない

紅型が生まれたのは14世紀から15世紀頃の琉球王朝時代と言われています。海外交易が盛んだった沖縄に、中国から紅型の技法が伝わり、インドやジャワ(現、インドネシア)から染色の技術が伝えられ、さらに南国特有の独自の文化や気候風土に育まれ、今日の紅型が誕生したのです。紅型の「紅」は「色」という意味。つまり、紅型とは「色」と「型」を使った染め物を指しています。

紅型のモチーフは日本的？

琉球王朝時代、紅型の着物は、王家や王族、士族などの特権階級だけが着用を許されていて、「一般庶民が着用することはできませんでした。実は、その文様に登場するのは、松や桜、藤、菖蒲、梅、菊、椿、鶴亀など、日本的なモチーフが多く、沖縄らしい風物が取り入れられることは少ないのです。もちろん、その色づかいは独特で、鮮やかな色彩は実に華麗です。

もめん ひちょう りゅうすいじゃこ
木綿 飛鳥に流水蛇籠
 おあいしょうぶもんよういしよ
葵菖蒲文様衣裳

白地型。白地に朱と黄を基調としたこの作品は、流水に蛇籠、菖蒲を主体に、鳥の飛び回る様を添えた構成で、大模様二段型付(おおもようにだんかたつけ)とよびます。王家の衣裳としてもちいられた例が多く、この衣裳は、楽童子が江戸上りのときに着たものだといわれています。よく好まれた図柄らしく、紅型の作品のなかで比較的多く見られます。

2007年11月
 那覇新都心にOPEN予定!!
 沖縄県立博物館・美術館



<http://www-edu.pref.okinawa.jp/kensetsu/>

